

きあみ
③ 喜阿弥焼窯跡
安政元年(1854)に那賀郡
神主村(現在の江津市二宮町
神主)出身の吹原繁蔵に
よって開かれました。雑器を
主に焼きました。民衆の暮ら
しの中に美を見出し、「民芸」
を提唱した柳宗悦(1889-
1961)にも高く評価されま
した。昭和20年(1954)に
廃窯しました。

くにさきじへえ
① 国東治兵衛頌徳碑、国東治兵衛の墓
江戸時代の中頃、遠田村
の国東治兵衛は、畳に使わ
れる畳表の材料の蘭草の
栽培を国東半島(大分県)
から導入し、さらに備後国
(広島県東部)を参考に改
良して、畳表は遠田や津田
の特産品となりました。
この地方の紙漉の導入に
も貢献しています。

おおくぼ ひろかね せきしゅう
⑥ 大久保 広兼 石州和紙資料館 要予約 ホームページ <https://masudashi.com/kankouspot/kankouspot-724/>
江戸時代に浜田藩の御用紙漉を務めた広兼家に伝わった紙漉
道具や美術品・古文書が展示されています。
囲炉裏のある「かみの宿」での宿泊も可能です。
[住 所] 益田市美都町都茂3045 [入館料] 大人(高校生以上) 500円
[TEL] 0856-52-2508 小人(小中学生) 200円
[開館時間] 10:00~16:00 [休館日] 12月~3月 毎週火曜日
※資料館までの道路は一部未舗装です。



② 右田本店
江戸時代の初め頃、領主
益田氏が去ったことで益田
がさびれることを憂いた
益田氏の元家臣右田宗味は、
酒造業を始めるとともに、
宗味市という定期市を開き
ました。
写真は酒蔵

⑤ 美濃地の一里塚
江戸時代、主要な街道に一
里(約4km)ごとに目印として
設置されたものです。土を
盛り上げた塚に木が植えら
れました。美濃地の一里塚
は、津和野藩の城下町と港
町の飯浦をつなぐ飯浦街道
に置かれたもので、益田市
内で最もこのりよい一里塚
です。

江戸時代 中頃の 益田市域の村	凡例	益田	浜田藩領	横田	津和野藩領
		津毛	石見銀山料	七村	浜田藩領(1619~1647, 1785~1865) 石見銀山料(1648~1785)

旧街道
江戸時代の益田市には主要な街道として、浜田藩の城下町浜田と津和野藩の城下町
津和野をつなぐ「(旧)山陰道」と、津和野藩領の飛び地をつなぐ「津和野奥筋往還(石見
中通り往還)」がありました。また、長門国(山口県北部・西部)まで通じる「長門道」や、
中国山地を越えて安芸国(広島県西部)に通じる道などがありました。

④ 棚田
「日本のピラミッド」とも言われる棚田は、益田市内でも各所に見られます。中でも
中垣内の棚田は、大道山の麓の谷間に沿って棚田がところせましと並び、日本の
棚田百選にも選ばれています。

わりもと
⑦ 旧割元庄屋美濃地屋敷
江戸時代にたたら業で栄え、浜田藩
匹見組の割元庄屋(複数の村で構成
される組を支配する庄屋)であった
美濃地家の屋敷(主屋と米蔵は国登
録有形文化財)を改修し、所蔵して
いた民俗文化財を展示しています。
[住 所] 益田市匹見町道川150
[TEL] 0856-58-0250
[入館料] 無料
[開館時間] 10:00~16:00
[休館日] 冬季(12月中旬~3月中旬)
月曜日(祝日の場合は翌平日)

⑧ 匹見の山林産業
匹見の豊かな山林は、多くの恵みをもたらし、人々は山林資源を糧に生業を
立てていました。木地師は轆轤師ともいい、轆轤を用いて椀や盆など木地の
器を作りました。匹見には木地師の権利を保証する木地屋文書や、木地師の
墓、轆轤など、木地師に関する文化遺産が多数伝わります。杣人の里でも
あり、たくさんの材木が伐り出されました。たたら製鉄は燃料として多くの
木が必要で、山間部で営まれました。たたら場の遺跡が点在します。高度
経済成長以前は、炭焼きを行う人も多く、炭焼き窯の跡が各所に残ります。
匹見ウッドパークではそのような匹見の山林産業の歴史を学べます。